

**研究課題名：「急性期脳梗塞に対する血管内チームによる出張治療（Drip and Go）の成績と課題」に関する情報公開**

**1. 研究の対象**

2016年1月1日から2018年12月31日に名古屋大学脳神経外科に所属する医師が関連の医療機関において急性期脳梗塞・主幹動脈閉塞症に対するカテーテルによる血栓回収療法を施行した患者さんが研究の対象です。

**2. 研究目的・方法・研究期間**

急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の再開通率が向上したため、日本及びAHAの診療ガイドラインでもグレードAと強く推奨されるようになり、爆発的に普及するようになりました。発症から再開通までの時間が早ければ早いほど、治療成績は改善することも知られておりますが、一方で全ての医療機関に専門医は居らず病院間連携を行いながら治療を行っている現状があります。一部施設においてはdrip and shipやmothershipなどと表現される形で患者転送を中心に対応しておりますが、名古屋大学関連病院の一部においては脳血管内治療専門医である医師が、各医療機関に出向いて血栓回収療法を行っております。患者さんは遠方の医療機関に移らずに同様の治療が受けられるメリットがあります。この方法において時間的側面、救急体制の側面から有用であったのかどうかを後方視的に検討し、更に医療の質の向上や問題点について検討することが目的です。

研究方法は各医療機関での電子カルテより後方視的に情報収集し、そのデータを解析致します。研究期間は研究承認後より2020年8月31日までを予定しております。

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

試料：使用しない

電子カルテから取得する診療情報：カルテ番号、生年月日、イニシャル、患者背景、閉塞部位、発症から再開通までの時間、tPA投与の有無、再開通の有無、脳梗塞の重症度、神経学的予後、術後合併症 等

**4. 外部への試料・情報の提供**

公立陶生病院、江南厚生病院、大同病院、中濃病院において名古屋大学の脳神経外科医師が急性期脳梗塞に対するカテーテルによる血栓回収療法を行った患者さんの電子カルテより研究に必要な情報を抽出します。カルテから収集した研究に用いる情報に関しては当院において厳重に保管・管理を行います。研究対象者の個人情報には匿名化し、対象者を特定するための連結対応表は作成しません。また個人が特定されるような情報が外部へ提供さ

れる事はありません。

## 5. 研究組織

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科 泉孝嗣  
名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科 西堀正洋  
名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科 塚田哲也  
公立陶生病院 脳神経外科 額直樹  
江南厚生病院 脳神経外科 水谷信彦  
大同病院 脳神経外科 辻内高士  
中濃病院 脳神経外科 井上繁雄

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL052-744-2353 FAX 052-744-2360

担当者：西堀正洋

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学  
准教授 泉孝嗣

研究代表者：

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学  
准教授 泉孝嗣